改善方策実施計画書　担当部局：アジア地域研究科　責任者：アジア地域研究科委員長　幹事：国際関係学部事務室

2010年7月16日

認証評価指摘事項	【総評】留学生に対しては、担当教員とティーチング・アシスタント（ＴＡ）による指導、サポート体制を組み合わせているが、さらなる支援が必要である。 【総評】教育・研究補助のための人的支援体制については、各学部、研究科においても手立てが講じられているが、体制が不十分な学部・研究科も見られ、法学部、環境創造学部、経済学研究科においては、支援体制の充実が求められる。
点検・評価問題点	ティーチング・アシスタント（TA）の制度はあるが、その業務内容は明確ではない。
改善方策	8-63　留学生が利用しやすいようにティーチング・アシスタント（TA）制度を改革するとともに、留学生への広報を強化し、利用を促進する。

計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
	→	→	→			

2010年度実施計画	達成時期	2010年度取り組み結果
検討委員会を開催し、TA制度の問題点を洗い出す。	2011.03	○ A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （ BまたはCの理由 ）

2011年度実施計画	達成時期	2011年度取り組み結果
留学生と担当教員から意見聴取を行い、TA の制度改革案を策定する。 学位論文提出時だけでなく、普段の研究報告や日本語論著と講義の理解などにおいても、TA 制度を十分に利用するよう、留学生と担当教員への広報を強化する（教務・広報委員会）。	2012.03	○ A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （ BまたはCの理由 ）

2012年度実施計画	達成時期	2012年度取り組み結果
2011 年度に策定した改革案を実施し、効果を点検する（教務・広報委員会）。	2013.03	○ A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （ BまたはCの理由 ）

2013年度実施計画	達成時期	2013年度取り組み結果
		A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （ BまたはCの理由 ）

2014年度実施計画	達成時期	2014年度取り組み結果
		A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （ BまたはCの理由 ）

2015年度実施計画	達成時期	2015年度取り組み結果
		A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （ BまたはCの理由 ）

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【総評】留学生に対しては、担当教員とティーチング・アシスタント（ＴＡ）による指導、サポート体制を組み合わせているが、さらなる支援が必要である。 【総評】教育・研究補助のための人的支援体制については、各学部、研究科においても手立てが講じられているが、体制が不十分な学部・研究科も見られ、法学部、環境創造学部、経済学研究科においては、支援体制の充実が求められる。
点検・評価問題点	ティーチング・アシスタント（TA）の制度はあるが、その業務内容は明確ではない。
改善方策	8-63　留学生が利用しやすいようにティーチング・アシスタント（TA）制度を改革するとともに、留学生への広報を強化し、利用を促進する。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

検討委員会を 2 回開催し、留学生の現状と課題について委員の間で問題意識を共有するとともに、留学生に対するＴＡのサポート体制のありようについて検討した。ＴＡは本年度、留学生が授業の一環で作成した課題やレポートの日本語の添削を行ったが、留学生からの添削依頼はまだ僅少であった。来年度以降、留学生がＴＡによる日本語添削をより多く利用するように留学生に働きかける必要がある。

所見	

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

2011 年度に策定した改革案を実施し教務・広報委員会、FD 委員会と認証評価委員会は今年度の計画に基づいて TA の活用を積極的に広報した。年度末にはその成果を点検するために TA の活用に関するアンケート調査を留学生と教員の双方に対して行った。アンケートでは、外国人留学生の日本語能力を向上させるため、さらに日本人院生と外国人留学生間の交流を深めるために、ＴＡに積極的な役割を果たしてほしいとの要望があった。これを受け、留学生・教員双方のニーズを把握し、具体的な策を検討中である。なお、留学生の日本語サポートについては、博士課程後期課程の日本人学生を TA として採用しているが、アジア地域研究科では日本人の後期課程在学生が少ないため、他研究科からの採用により TA を確保している。

所見	これまでの TA の活用に関する取り組みは評価できます。留学生・教員双方のニーズに応える TA の運用を期待します。

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

本年度では 2011 年度に策定した改革案を実施した。その効果をまとめるために、TA の活用に関するアンケート調査を留学生と教員に対しておこなった。その結果、一定の改善を確認できたと同時に、次の課題も明らかになった。①留学生の日本語論述力は低下傾向にあり、日本語サポートのニーズは高いが、修士論文提出時期などに日本語サポート依頼が集中する傾向があり、それ以外の時期は逆に利用者が少ない。授業や院生報告会等、日ごろから日本語サポートを利用することで論述力を高める努力をするよう、教員が指導することが望ましい。②規則上、留学生のサポートを行う TA として採用できるのは博士課程後期課程の日本人学生に限定されている。アジア地域研究科では日本人の後期課程在学生が少ないため、内部で TA を確保するのが困難になっている。なお、留学生の TA への登用は年度末に研究科で合意を得た。

所見	提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。 前年度、策定した改革案を実施し、TA 活用に関するアンケート調査により改善は順調に進んでいます。今後、教員の指導のもと、日頃から TA の活用を促進し、時期的にバランスのとれた TA の運用を期待します。